和歌山

海自呉地方隊創設70周年記念行事を支援
艦艇広報と体験航海で大盛況の3日間

和歌山地方協力本部は7月13日から15日の3日間、和歌山港西浜第3岸壁で行われた海自呉地方総監部が実施した呉地方隊創設70周年記念行事（関西方面艦艇広報）を支援しました。

この記念行事は、海上自衛隊の任務特性を生かした艦艇を主体とした災害支援の観点から、和歌山県、大阪府、兵庫県の3カ所で同時に艦艇広報を行い、海上自衛隊の姿に触れてもらうことを目的としています。

和歌山港には第5護衛隊所属護衛艦「あきづき」が寄港しました。

艦内号令をかける参加者

前日まで梅雨らしい天気が続いていましたが、艦艇広報初日には雨も止み、協力団体などが見守る中、無事に入港しました。

一般公開は約2時間以上も前から入場待ちの列ができるほどの盛況で、予定を約30分繰り上げて開始しました。

来場者は護衛艦「あきづき」の前甲板から飛行甲板まで、乗組員の丁寧な説明を受けながら楽しそうに見学していました。

会場には陸上自衛隊の車両（高機動車、軽装甲機動車）や警察車両のほか、広報ブース、物販ブース、キッチンカーなどが並び、イベントを盛り上げていました。

2日目は、募集対象者に特別公開が行われ、普段は見ることができない艦内を見学して、海上自衛隊についての理解を深めました。

最終日には、事前公募で選ばれた約400人が参加して体験航海が行われました。参加者は受け付けを終えると次々と乗艦し、出港を心待ちにしていました。

出港時刻になると、参加者から選ばれた方が「出港用意」と元気よく艦内号令をかけ、護衛艦「あきづき」は出港しました。体験航海は約2時間行われ、海上自衛隊を満喫するとともに、偶然イルカの群れと遭遇するなど貴重な体験となりました。

和歌山県で行われた呉地方隊創設70周年記念行事は、事故もなく無事に終了し、3日間を通じて約3100人の来場者がありました。

神奈川

さがみはら中学生職場体験を支援
座間駐屯地で自衛隊の仕事と歴史を学ぶ

神奈川地方協力本部相模原地域事務所は6月14日、陸自第4施設群の協力を得て、東海大学付属相模高等学校・中等部の3年生10人の陸自座間駐屯地（相模原市）での職場体験を支援しました。

「相武台」記念碑の前で記念撮影

この職場体験は、中学生が「働くこと」「生きていくこと」の尊さを実感し、自己を見つめ、自分の生き方について考えることなどを狙いとした相模原市の「令和6年度さがみはら中学生職場体験」の一環として行われました。

当日は、座間駐屯地の概要説明、装備品装着体験、6人用天幕設営体験、体験喫食、資料館見学などが行われ、また地元の歴史紹介として旧陸軍士官学校跡地の見学も行われました。

参加した生徒からは「今回の職場体験を通じて、地元相武台の歴史や自衛隊のこと、任務を完遂する上でチームワークの大切さを学びました」「自衛隊はとても大切で重要な、すばらしい仕事だと思いました」などの感想が寄せられ、自衛隊の仕事や生活に対する関心と理解を深める有意義な1日となりました。

宮崎

コロナ禍を乗り越え久しぶりの再会を果たす
初の昼食会形式で遺族交流会を支援

宮崎地方協力本部は6月8日に延岡市、15日に宮崎市、22日に都城市で開催された自衛隊遺族会宮崎県支部連合会（遺族会）の遺族交流会を支援しました。遺族会は、宮崎県内に居住する陸・海・空自衛隊の殉職者ご遺族の相互扶助および親睦と融和を図ることを目的としています。

宮崎市での遺族交流会

今回、初めて3地区に分けて行われた遺族交流会は、過去4年間、コロナ禍の影響でご遺族同士の交流が難しかったことを受けて、宮崎地本が提案したものです。

宮崎県の南北に長い地理的特性を考慮し、延岡・宮崎・都城の3地区で、昼食会形式で行われました。

いずれの交流会でも、参加されたご遺族は久しぶりの再会に話が弾み、宮崎地本職員から聞く自衛隊の現況にも興味深く耳を傾けていました。

各ご遺族は一様に「定期的にこういった機会を設けてほしい」と話され、次回の参加も約束し合っていました。

今後とも、ご遺族に寄り添い、多くのご遺族が参加できる交流の機会を設け、ご遺族相互の親睦と融和を図っていく予定です。

大阪

大阪募集夏の陣！　いざ出陣！
市街地広報で約550件の募集情報を獲得

大阪地方協力本部は7月26日「陸海空自衛隊サマーフレンドシップキャンペーン（「サマキャン」）」の一環として、大阪府内の大型商業施設や主要駅前など16カ所で一斉に市街地広報を行いました。

この事業は、上級部隊や関係各所との長期にわたる調整を経て、大阪府内の大型商業施設7店舗と鉄道の9駅前で行われました。

地本各課室から各地区隊へ人員を増援することにより、募集ブースを出展しました。昨年度に続き2回目の実施となります。

市街地広報では、普段は事務職の部員も積極的に募集対象者などに声を掛けました。ブースを訪れた方には「空くじなし」の無料ガラポンを楽しんでもらい、「大阪夏の陣」さながらの熱気溢れる広報活動を展開しました。

その結果、約550件の募集対象者情報を獲得することができました。ブースを訪れた募集対象者からは「街頭にこんなに自衛隊の制服がいるのは新鮮だった」「制服の自衛官と普通に話せて楽しかった」「自衛隊に興味があったので説明を聞くことができてよかった」など、多くの好意的な声が聞かれました。

募集ブースでの広報活動

また、広報活動中に行ったSNSのタイムリー投稿にも多くのフォロワーが反応してくれました。

さらに、各ブースでの広報活動に募集相談員など多くの方々が協力してくださり、改めて協力団体や協力者の支えあっての地本の活動であることを実感しました。

今後もサマキャンの一環として、市街地広報を大型商業施設4店舗で行う予定です。すっかりお馴染みとなった京阪京橋駅前をはじめ、各地区隊も市街地広報を継続し、募集対象者情報や志願票の獲得に努めていきます。

札幌

予備自衛官補辞令書交付式を執行
新たな予備自衛官補17人が決意新たに式典参加

札幌地方協力本部は7月13日、本部庁舎で予備自衛官補辞令書交付式を行いました。

栗田本部長からの辞令書交付

式には、本年度採用の予備自衛官補17人が参加し、来賓として陸自北部方面総監部予備自衛官班長および第120教育大隊訓練係長が参列する中、執行者の栗田本部長が一人一人に辞令書を交付しました。

参加者は、厳格な式典の雰囲気や自衛隊ならではの規律ある環境に少し緊張しながらも、辞令書交付後には全員がしっかりと服務の宣誓を行いました。

栗田本部長は、予備自衛官補（一般）の採用年齢の引き上げや教育訓練修了期限の延長など、予備自衛官等制度の改正について訓示し、予備自衛官補としての意識の確立を図りました。

式の後は、陸自真駒内駐屯地に移動し、予備自衛官等制度の説明とともに、訓練担任部隊の第120教育大隊から教育訓練概要の説明を受けたほか、実際に宿泊する居室や浴場、教育を受ける隊舎、厚生センターなどの施設を見学しました。

参加者は、丁寧に整備された居室や浴場の大きさに驚いていました。

最後に、訓練担任部隊から「今後の教育訓練の参加を心待ちにしています」との声がけを受けた新予備自衛官補たちは、訓練をしっかりやり遂げる決意を持った表情で応えていました。

熊本

募集解禁で一斉に市街地募集広報を実施
自衛官募集の熱い思いをアピール

熊本地方協力本部は7月1日、県内高校3年生の募集解禁に合わせて、自衛隊家族会、隊友会および募集相談員と連携し、熊本市内の各地で一斉に市街地募集広報を行いました。

一斉に市街地募集広報

当日は、うだるような暑さの中、笹島本部長の要望事項である「燃やせ、情熱」「深めよ、連携」を体現するため、普段は募集以外の業務（総務、就職援護など）に従事する部員も含め、50人以上が一致団結して、ティッシュやチラシの配布を行いました。熊本駅、水前寺駅、新水前寺駅などを利用する生徒に対して、自衛隊の認知度を向上させ、自衛官募集の熱い思いをアピールしました。

昨年度は自衛官の採用率が低調で、今年度も募集対象者数の減少や、世界最大手半導体企業の熊本進出に伴う民間求人活動の活性化など、厳しい募集環境が続いています。

今年も引き続き、熊本地本一丸となり、関係協力団体や地域の皆さんのご協力を得ながら、果敢に挑戦し、小さな成果を積み上げて、募集広報活動を進めていきます。

札幌

自衛隊新卒合同企業説明会を開催
再就職の不安を解消、企業から高評価の声

札幌地方協力本部は7月10日、札幌コンベンションセンターで令和6年度自衛隊新卒合同企業説明会を開催しました。

熱心に説明を聞く参加隊員

この説明会は、自衛隊援護協会が主催し、令和7年9月までに任期満了を迎える任期制隊員（主に20代）を対象に、企業説明や質疑応答を行い隊員の再就職準備をスムーズに進めることを目的としています。今年度は、札幌地本管内から88人の任期制隊員が参加し、道内外の企業や警察、海上保安庁などの公的機関を含む178社（昨年度より41社増）を招待しました。求人倍率は約14倍で、退職自衛官の人気と評価の高さがうかがえます。

企業説明会に参加できない企業については、パンフレットなどで情報提供を行い、隊員のニーズに対応しました。また、退職予定隊員を予備自衛官等の募集につなげるため、広報ブースを設置し、参加隊員および企業に対して予備自衛官等制度の理解を促進しました。

参加隊員は希望する企業ブースを訪れ、企業の説明を熱心に聞き、積極的に質問して再就職への不安を解消していました。

終了後、参加隊員からは「希望する企業と面談し、就職のイメージができた」「企業から具体的な内容を聞けて参考になった」といった前向きな感想が寄せられ、参加企業からは「参加隊員の就職に対する熱意を強く感じた」という声もありました。

宮崎

高校教諭との募集連絡会議を開催
自衛隊の業務理解と連携強化を目指して

宮崎地方協力本部は6月4日と13日の両日「高校教諭との募集連絡会議」を開催しました。4日は陸自都城駐屯地、13日は空自新田原基地で行われました。

新田原基地の研修

この会議の目的は、県内の高校の進路指導教諭に自衛隊の業務の特徴と入隊コースを説明し、意見交換や部隊研修を通じて自衛隊への理解を深め、今後の連携を強化することです。各日合わせて39校から42人の教諭が参加しました。

都城駐屯地では、教諭たちが陸上自衛隊の装備品を、また新田原基地では、航空機と警備犬の訓練の見学が行われました。

特に警備犬の訓練は初めて見る光景だったため、教諭たちは非常に興味深く見入っていました。

また、各高校出身の若い自衛官を交えた体験喫食では、教諭たちがかつての教え子と再会する場面もありました。日南振徳高校出身の女性隊員は、3年間お世話になった教諭と久しぶりの再会を喜び、楽しそうに会話を弾ませていました。

この連絡会議を通じて、教諭たちは自衛隊の多様な業務について理解を深めるとともに、教育現場との連携を強化する一助となりました。

鳥取

「空上げコンペティション」を開催
地元高校と自衛隊が協力し学習意欲を向上

鳥取地方協力本部は7月23日、松柏学院倉吉北高校との共同企画として「倉北調理科×JSDF空上げ（から揚げ）コンペティション」を開催しました。

空上げコンペで奮闘中

この企画は、倉吉北高校調理科の学生が考案した「から揚げ」をコンペティション形式で評価し、その結果を近隣部隊の給食に反映させることで、生徒の学習意欲を向上させることを目的としています。

また、自衛隊としては、学習を支援し、学校や地域との連携を深める狙いがあります。

コンペには、同校調理科の3年生10人が参加しました。審査員として鳥取地方協力本部長、倉吉北高校校長に加え、陸自米子駐屯地、空自美保基地および高尾山分屯基地から給養担当者・調理担当者が招かれました。

生徒が提案した10種類のメニューの中から、各部隊が実際の給食で採用したいものが「部隊認定メニュー」に選ばれ、各部隊で提供されることになります。

生徒たちは、半年前からメニューを考え、コンペに向けて準備を重ねてきました。地元食材を使用し、大量調理が可能で栄養豊富なメニューを工夫して作り上げました。

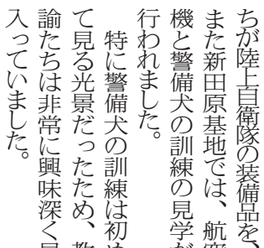
例えば、鳥取県の名産「とっておきいちご」を使ったソースをかけたもの、地元の学校給食で人気の「スタミナ納豆」を使用したもの、らっきょうや梨に肉を漬け込んだもの、韓流ブームに乗ったチーズタッカルビ風など、バリエーション豊かな揚げが揃い、審査員を唸らせるほどの完成度でした。

コンペ終了後、生徒は「将来の職業の選択肢の一つとして、自衛隊の給養員もいいかも」と笑顔で語りました。

大阪

夢を実現！　予備自衛官訓練を修了
思いは予備自衛官補から予備自衛官へ

大阪地方協力本部所属の井上早織（さおり）予備陸士長は6月21日から25日の間、陸自伊丹駐屯地で実施された「予備自衛官5日間招集訓練」に参加しました。


夢を実現した井上予備士長

井上予備陸士長は、平成27年4月に第一生命保険株式会社に入社し、自衛隊などを担当する2級ファイナンシャル・プランニング技能士として活躍していました。

大阪地本の広報官から予備自衛官補制度の説明を受け、高校3年生の時に発生した東日本大震災における自衛隊の活動を思い出しました。

3年間で50日間の厳しい教育訓練を無事に修了し、念願かなって予備自衛官に任用されました。

今回、武政氏が大阪府隊友会会長として隊員激励のために伊丹駐屯地を訪れたところ、井上予備陸士長が予備自衛官招集訓練に参加していたことから、武政氏と凛々しい戦闘服姿での記念撮影となりました。

井上予備陸士長は「訓練期間中、職場や担当の方々に多大なるご配慮をいただいたのでご恩返しをしていきたい。訓練に参加できるきっかけを作ってくださったのは武政顧問のお陰です」と喜びと抱負を語っていました。

群馬

県立高校で生徒・職員を対象に防災講話
防災意識の向上と防災対策の普及

群馬地方協力本部高崎地域事務所は6月26日、県立嬬恋高校の生徒および職員73人に対して防災講話を行いました。

嬬恋村は過去に浅間山の噴火によって多くの人命や家屋に被害を受けた経験があり、嬬恋高校では毎年、防災意識の向上と防災対策の普及を目的に防災訓練を行っています。

防災訓練は2部制で行われ、1部では生徒の避難訓練が実施されました。

続く2部では、宮本高崎地域事務所長が防災講話を行い、講話では災害発生時にどのような状況や被害が想定されるかを、参加者が具体的にイメージできるよう災害派遣時の活動写真などを用いて具体的に説明しました。

また、災害に備える心構えや備蓄用品の使用方法についても紹介しました。

生徒からは「もし実際に災害で地震や噴火に遭遇したらどう行動すればよいか考える機会になった」「濁流に飲み込まれる車の映像などを見て怖いと感じ、いざという時に困らないように気を付けたい」といった感想があり、防災意識が向上しました。

また、職員からは「生徒の安全を確保するためにどうしたらよいかを改めて確認する良い機会となり、有意義な防災訓練ができました。来年もお願いしたい」との言葉をいただきました。

次回は、救急活動などの実演や体験を含めた訓練を行う予定です。

防災訓練後の記念撮影

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　高橋　隆志(たかはし　たかし)
◇電　話：03−5227−2468　（平日 09:00〜16:00）
◇メール：jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和(かじ　まさかず)
◇番　号：080−4630−8987　（平日 09:00〜16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役　職・氏　名	担　当　内　容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚　信一(てづか　しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に陸上自衛隊）
家族会理事(海自OB) 鍛治　雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に海上自衛隊）
家族会理事(空自OB) 荒木　淳一(あらき　じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に航空自衛隊）
家族会副会長(陸自OB) 宮下　寿広(みやした　としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　高橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！